



合志の旋風^{かぜ} ～自律貢献～

令和7年12月12日（金）No 31 発行
文責：松本 卓也

ハートフルデイ、なかまを知り、 みんなの仲を深めよう



合志市では、「合志市部落差別をはじめあらゆる差別をなくし人権を守るまちづくり条例」に基づき、さまざまな人権教育や人権啓発事業が実施されています。その一環として、6日（土）、「第20回合志市人権フェスティバル」が市総合センター「ヴィーブル」で開催されました。人権ポスター・標語の優秀作品の表彰や杉並台保育園児による歌唱や童謡群読、合志中学校人権委員会による取組発表、熊本出身のフリーアナウンサーである武田真一氏による講演が行われました。

本校の取組発表では、人権委員長の T さん、副委員長の U さんが、人権委員会の目標である「みんなの仲を深められる学校にしていきたい」を達成するために、これまで行ってきたハートフルタイムを発展させたハートフルデイの取組を中心に発表しました。



【目的】クラスがもっと仲良くなれるように、1日の中でいろいろな人と交流を持つ

【流れ】①朝の会での目標設定

「あまり話をしない友達に今日は10回挨拶してみよう」

「1日に5回以上ありがとうを言う」等々

②実施

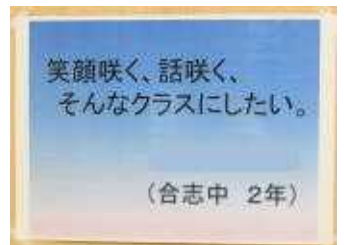
③帰りの会での振り返り

達成できた人は配布された木の幹シートにシールを貼る

発表を見られた方の感想です。

- 差別をなくすため、自分たちが成長するために努力していてすごいと思った。（20歳代）
- 学んだことを自分たちの日常につなげて考えるという、とても大切な取組をしていると感心しました（40歳代）
- ハキハキと発表していて、見ていて気持ち良く、また、合志市民として誇らしく思いました。（50歳代）
- 早い時期から人権について学ぶのは、とても良いことだと思います。（60歳代）

発表の最後には、人権委員長の T さんが「色とりどりに花が咲き、笑顔の花を咲かせることができました。今回のハートフルデイの取組をきっかけに、みんなの仲を深められるように楽しい学校生活を送れるようにしていきたいです。」と決意を述べてくれました。



この世に生を受けた人間は、誰もが自分らしく幸せに生きる権利を持っています。しかし、社会には、まだ様々な偏見や差別が残っています。私たち一人一人が、差別を見抜き、差別と闘い、差別をなくしていく力をつけなければなりません。学校は、そのための学習を毎日の暮らしの中で行っています。人と人とのつながりを大切に、誰かを幸せにする温かい言葉があふれる合志中学校を、子どもたちと職員みんなの力で創っていきます。これまでの取組を振り返る素晴らしい発表でした。人権委員会の T さん、U さん、Y さん、N さん、ありがとうございました。

※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）